

# 埋文やまがた



2026年3月31日  
web版第18号  
(第74号)



## 考古学お仕事体験

11月15日に考古学お仕事体験を開催し、普段センターで行っている遺物の整理作業を体験していただきました。

※写真は模擬石器への注体験

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷5608番地 TEL 023-672-5301 FAX 023-672-5586

ホームページ：<https://yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：[yac@yamagatamaibun.or.jp](mailto:yac@yamagatamaibun.or.jp)

東原遺跡は東根市の南西部、山形空港の近くにあります。令和6年に東根市教育委員会が発見したことで新しく登録された遺跡です。山形天童線の道路工事に伴う令和7年の発掘調査では、大富中学校南西の交差点を挟んで南と北の二か所を調査しました。果物畑の土と、乱川から流されてきたと考えられる砂まじりの土の下に、奈良・平安時代の土器の欠片を含んだ土層（遺物包含層）がありました。遺物包含層を掘り進めると、さらに下の層から建物などの跡が多数見つかりましたが、これらは令和8年度に詳しく調査します。

1区では土師器・須恵器の破片などの大量の遺物や竪穴建物などの遺構が見つかりました。竪穴建物は形がわかっただけのものがほとんどですが、20棟以上あることが見込まれます。ひとつを細かく掘ってみると、当時の状態がよく残っていて、床の辺りから鉄滓（鉄製の道具を作る時にできるクズ）や鞆の羽口（炉に空気を送る管）な

ど鍛冶と関係がある遺物が焼けた土と一緒に見つかりました。この建物は鍛冶工房だったと考えられます。また、炭や焼けた土を含む歪な形の落ち込みがあちこちで見つかり、埋まりかけた竪穴建物の跡やくぼんだ地面を使って何度も火を焚いていたことがわかりました。落ち込みからは、つなぎ合わせられる土器の欠片がまとまって見つかる傾向がありました。

2区では調査区の南端で1辺6mを超える大きな竪穴建物の一部が見つかりました。2区の遺構・遺物は1区に比べてとても少ない上、2区の北半分では見つかりませんでした。ここより北には遺跡が広がっていないのでしょうか。

この遺跡での暮らしぶりや周りの遺跡との関わりを明らかにするため、発掘調査と整理作業が続いています。



東原遺跡発掘調査区とその周辺（南から撮影）



鍛冶に関する遺物（左：鉄滓、右：鞆羽口）



土器の欠片が大量に重なり合っで見つかりました。土器をまとめて捨てた場所だと考えられます。



炭・焼けた土を含む落ち込みには、一部を人の手で掘り込んで形を整えたと考えられるものもあります。

飯田館跡は、土砂災害防止事業に関連して行われた調査です。今年度は館跡の南側と東側の調査を行いました。調査区は地形によって二つに分けられます。一か所は斜面地でもう一か所は東側の平坦地になります。斜面地については、安全に作業を行うために部分的に掘り下げて調査をするトレンチ調査を行いました。

斜面地では、はっきりとした人々の生活のあとを確認することはできませんでした。見つかった遺物は江戸時代に作られたお金や茶碗、皿などです。地表からは最近まで使われていた道具も見ついています。斜面地には平らな場所があり、土を盛って作られている場所も確認出来ました。また、その土の中から1,600～1,800年の間で作られた九州地方の茶碗などが見つかりました。この土の下は崩れやすい大きい石が入った土でこの中からは遺物を見つけることが出来ませんでした。また、その下は岩が出てきます。館が建っていた時にはこういった土や岩が所々で見えていたと考えられます。

東側の平坦地は二か所に分けて調査をおこないました。下段の東側は畑を作るため昔の生活をしたあとは削られてなくなっていました。西側は平らな場所を広げるため土を盛っ

たことが確認できました。盛った土の中から江戸時代前半の瓦などが出土しました。瓦は館跡の頂上の平場の裾からも出土しています。

上段は岩を削りつくった柱穴の痕や何に使ったか分からない大きな窪みが見つかりました。そこからは掘り窪めたときの道具による削った痕が確認できました。埋まっていた土からは砥石ととしが多く出土しました。

館跡は飯田播磨守いいだほりまのかみが1584年以降に建てたといわれています。ただ、館跡に関する史料はいまのところ確認されていません。今年度の調査でも、1500年代につくられた遺物は見つかりませんでした。次年度も調査が続きますのでその成果が期待されます。



東側にある平坦面の様子 (東から)



斜面地の調査の様子 (南西から)



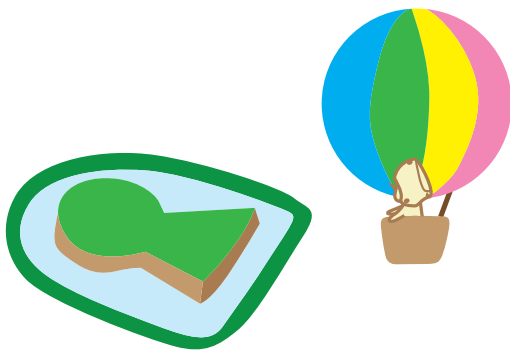
近世の瓦出土状況 (北西から)

国指定史跡にも指定されている東北有数の大古墳群、下小松古墳群（川西町）で遺跡体感ツーリズムを開催しました。参加者は14名で、川西町の担当者から古墳群の特徴などの解説を受けながら古墳群を散策しました。花火で熊対策をしながらの開催となりましたが、米沢盆地を一望できる絶景の中、古墳時代に思いをはせることができました。



下小松古墳群最大の K50 号墳  
墳丘がきれいに整備されています

T41 号墳丘上からは置賜盆地を望む絶景が。古墳時代の人々もこの景色を見たのでしょうか？



## 令和7年度 ふるさと考古学講座

- ① 1月22日(木) 大場正善：埋文センター職員  
フランスの石器研究最前線  
～パンスヴァン石器製作ワークショップ2025に参加して～
- ② 2月27日(金) 高桑登：埋文センター職員  
『山形の宝マップ』のデータを利用した遺跡位置図の作り方
- ③ 3月11日(水) 佐川正敏：東北学院大学教授  
前期旧石器研究の回顧と展望  
～自身の研究を振り返りながら～



## 発掘された小国町の遺跡

9月10日(水)～10月30日(木)  
横川ダム管理支所「きてくる館」

令和7年度2回目の市町村巡回展は新潟との県境に位置する小国町。横川ダムの情報施設である「きてくる館」の一角をお借りし、ダム建設に伴い発掘調査が行われた遺跡の出土品を展示しました。縄文時代の市野々向原遺跡・千野遺跡・下叶水遺跡、中近世の飛泉寺跡の出土品です。



## 発掘された中山町の遺跡

12月2日(火)～1月20日(火)  
中山町立歴史民俗資料館

今年度最後の巡回展は芋煮会発祥の町でもある中山町です。中山町立歴史民俗資料館の展示ケースをお借りし、古墳時代の集落跡である三軒屋物見台遺跡や、古代の達磨寺遺跡・柳沢条里遺跡の出土品を展示しました。ギャラリートークには地元の方をはじめ、多くの方にご参加いただき、発掘を担当した職員による説明を行いました。



## ～昭和100年記念～ 昭和の発掘調査

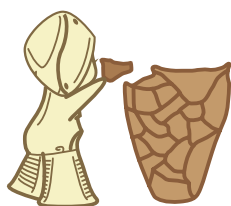
9月22日(月)～12月5日(金)  
山形県埋蔵文化財センター

昭和48年4月、山形県教育庁に埋蔵文化財の専門職員を配置した文化課が設置されました。それから昭和63年までの15年間で、ほ場整備事業や道路改良事業などに伴い、170遺跡の発掘調査が行われました。令和7年が昭和100年に当たるのを記念し、所内で「昭和」に発掘された出土品を展示する企画展を開催しました。

# 考古学お仕事体験

11月15日(土)

毎年開催している「考古学お仕事体験」を今年度も53名の方々にご参加いただき開催しました。今回初めて発掘したばかりの土器を洗う「洗浄体験」も行いました。本物の土器や石器に触れたり、細かな整理作業に苦戦しながらも楽しく体験していただけたようでした。ぜひ未来の考古学者になってほしいものです。



## 令和7年度山形県発掘調査速報会

令和8年3月8日(日)

東根市公益文化施設 まなびあテラス

今年度山形県内で行われた遺跡の発掘調査の中から、5遺跡について調査成果の報告と、出土品の展示を行いました。

～発表遺跡～

- 生石2遺跡(酒田市)
- 長岡南森遺跡(南陽市)
- 東原遺跡(東根市)
- 史跡山形城跡(山形市)
- 飯田館跡(山形市)

